



天文台だより

銀河の森天文台
2022冬号
Vol.94

11月19日夜、部分月食を観測！



2021年11月19日(金)の夜、最大食分0.97というほぼ皆既月食に近い部分月食が起き、日本全国で観測されました。陸別では、最大食になる直前に雲の合間から欠けた月が現れ、赤く見える月に来館者から感嘆の声が上がりました。左の写真は食分がほぼ最大の時の部分月食の様子です。右下の明るい部分が地球の影に入らなかった部分です。

月食は、太陽-地球-月が直線上に並び、地球の影に月が隠れる現象です。月全体が隠れる(食分1.0以上になる)と「皆既月食」となります。2021年は、5月26日夜に皆既月食が起き、陸別も晴れて観測できました。

次回日本で見る事ができる月食は、2022年11月8日(火)夜の「皆既月食」です。この日は天王星が月に隠される「天王星食」が月食中に起きます。楽しみですね。

追悼：上出洋介館長を偲ぶ

当館館長の上出洋介先生が、2021年12月9日にご逝去されました。

上出館長はオーロラ研究の第一人者として活躍されている中、2010年4月より当館館長に就任し、現在まで館の運営にご尽力いただきました。近年は健康不安により来町できない中、メールやリモート会議等で館の運営に関っていただきました。突然の悲報に接し、職員一同驚きと共に痛惜の念でいっぱいです。

上出洋介館長のご逝去を慎み謹んでお悔やみ申し上げます。



(上出洋介館長)

ハロウィンナイト、ステキな仮装ありがとう！



2021年10月27日～31日の期間、ハロウィンナイト観望会と題して、仮装した来館者にお菓子をプレゼントするイベントを開催しました。期間中、イベントに参加していただいた来館者は63名で、各々お気に入りの仮装で恒例のお菓子すくいに挑戦し、ハロウィンナイトを楽しんでいました。皆様、ステキな仮装ありがとうございました。



冬のイベント情報 !!

☆2021年度銀河の森天文台写真展

銀河の森天文台で撮影した最近1年の写真を展示します。合わせて、皆様が最近1年で撮影された天体写真を公募し展示します。詳しい応募方法は天文台HPをご覧ください。

募集期間：2022年1月6日(木)～2月28日(月)

展示期間：2022年3月4日(金)～20日(日)

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:54	16:03	27.8	5:05	14:11
1月15日	6:51	16:18	12.4	13:32	4:49
2月 1日	6:38	16:40	29.4	6:59	16:22
2月15日	6:20	16:58	13.9	15:04	5:59
3月 1日	5:59	17:17	27.9	5:32	15:15
3月15日	5:35	17:34	12.4	13:55	4:32

「オーロラウィーク2022」開催中止のお知らせ

2月2日(水)～13日(日)に開催を予定していましたがイベント「オーロラウィーク2022」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止となりました。

安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

追悼：りくり命名者諏訪貞子さんを偲ぶ

115センチ大型望遠鏡「りくり」命名者の諏訪貞子様が”令和になる前に天寿を全うしました”と親族の方からご連絡がありました。

諏訪貞子様のご逝去を悼み謹んでお悔やみ申し上げます。

天文行事&暦

1月

- 12/30-1/5 天文台休館日
- 3 ●新月
- 4 しぶんぎ座流星群が極大
(AM6時 最大50個/時)
- 5 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 7 水星が東方最大離角
(光度:-0.5等, 離角:19.2°)
- 18 ○満月
- 20 大寒(24節気:太陽黄経300°)

2月

- 1 ●新月
- 4 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 13 金星が最大光度(-4.9等)
- 17 ○満月
水星が西方最大離角
(光度:0.1等, 離角:26.3°)
- 19 雨水(24節気:太陽黄経330°)

3月

- 3 ●新月
- 5 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 4-20 2021年度銀河の森天文台写真展
- 18 ○満月
- 20 金星が西方最大離角
(光度:-4.5等, 離角:46.6°)
- 21 春分(24節気:太陽黄経0°)

2022年太陽系天体みどころカレンダー

★黒線期間が見頃の時期、点線期間は短時間ですが見える時期になります

●:新月 ○:満月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月	●3 ○18	●1 ○17	●3 ○18	●1 ○17	●1.3 ○16	●29 ○14	●29 ○14	●27 ○12	●26 ○10	●25 ○10	●24 ○8	●23 ○8
太陽	晴れていれば館内で、太陽望遠鏡で撮影した現在の太陽の映像を見ることができます。											
水星												
金星												
火星												
木星												
土星												
天王星												
海王星												

天文台開館中、太陽系の天体たちが見頃となる時期をカレンダーにまとめました。

2022年は11月8日に皆既月食があります。月食中に「天王星食」も起こるため、赤く色づいた月に天王星が隠される様子を観察できます。今年の中秋の名月は9月10日で、満月です。

人気の外惑星が見頃となるのは夏以降です。まずは8月中旬から土星が、続いて9月下旬から木星と海王星が見頃を迎え、11月からは天王星が観察しやすくなります。12月1日には約2年2ヶ月ぶりに火星が最接近し、2023年の春頃まで見ることができます。

12月下旬からは金星がほぼ1年ぶりに宵の明星となり、天文台で観察しやすくなります。

望遠鏡で、肉眼で、今年もたくさん空を見上げましょう。みなさまのご来館をお待ちしています！

天文台からののお知らせ

☆ 12月30日(木)~1月5日(水)の期間は、天文台休館日となります。

ペッコカめぐり「シリウスBチャレンジ」

冬の夜空に輝くおおいぬ座のシリウスは、全天で一番明るい恒星です(太陽を除く)。シリウスはシリウスAとシリウスBと呼ばれる二つの星からなる連星で、肉眼で明るく見えているのがシリウスA、シリウスBは暗い星のため、望遠鏡を使わなければ見ることはできません。しかし、望遠鏡でシリウスBを見るのも簡単ではなく、気流が安定していて星が非常にシャープに見えるときでなければ、シリウスBはシリウスAの明るさに埋もれてしまい、見ることができなくなってしまいます。実はここ数年間は、シリウスAとシリウスBが離れている時期のためシリウスBを見る絶好のチャンスとなっています。そんなチャンス



「シリウス」(矢印の先の小さな星がシリウスB)

期でも銀河の森天文台でシリウスBが見られるのは年に数回程度しかありません。みなさんもシリウスBが見えるかチャレンジしてみませんか? (中)

プラネタリウム上映中止のお知らせ

コロナ感染拡大防止のため、コロナ終息までプラネタリウム上映を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

発行・編集：りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp Twitter: @ginganomori_obs

